

序 文

春野町が発足してから二十年の年月がたちました。

その間にいくたびか計画されながら、なかなか実現しなかった町史が、待望久しい町民の前にいよいよ発刊される運びとなりました。古き時代をも懐しむ吾南の土地にも開発の波が押しよせ、南学や兼山に象徴される郷土の歴史と伝統は、春野町発展の糧となることなく、一挙に消えさるのではなからうかという一抹の不安は、私達の脳裏を去来します。

ふるさとは文字通りの心のふるさとはです。過ぎ去った時代の歴史をひもとき、父祖や先人の残した有形無形の遺産を顕彰し、私達の郷土の今日までたどり来った長い伝統と歴史の流れに思いをはせようではありませんか。

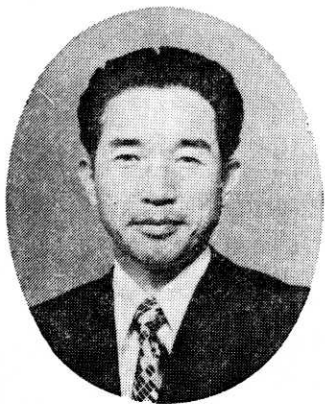
過去より未来につながる歴史的風土の中にこそ、風格のある田園の町を育ててゆくためのエネルギーが湧き、そのことを今、大切にしなければ後世に悔いを残すと思います。

そういう意味から、内容においても時期においても本誌の発刊の意義は大きいものと信じます。

今は春野、かつては吾南と云われた、この土地の偉大な先人のご苦勞と功績を心から讃えるとともに、町民こそって、本書の持つ意義と性格を理解し、批評、検討を加えることにより、町の発展向上に寄与されることをお願いいたします。

町史編さんにあたり、長い年月にわたって、ご苦心をいただきました関係各位に対し深く感謝の意を表します。

昭和五十一年四月



春野町長 中山 昭

凡 例

一、本書は、高知県吾川郡春野町の原始時代から、現代までをまとめて一卷としたもので、全巻横川末吉が執筆した。

一、本書の構成は概説、自然、原始、古代、中世、近世、近代、現代の各編から成っている。

一、記述はおおむね各編について政治、社会、経済、文化等に分けて行なったが、史料の関係でかならずしもこれに従いえなかったところもある。また民俗編は割愛したが、本文中所々に関連して述べた。

一、記述は、各時代ともに時代を支えた人びとを中心としながら、忘れられようとする優れた人びとの事蹟を改めて発掘した。先人への感謝の意を表したく思ったからである。

一、史料はじゅうぶんとは言えなかったが、町の先輩小田玉城氏の「西分村史」(稿本)、中村忠氏の「春野町史」(稿本)があったうえ、在地より「安並家文書」、「石田家文書」、「深瀬家文書」、「門田家文書」、「吉良家文書」、「辻家文書」、「野本家文書」、「荒倉神社文書」、「弘願寺文書」、「光寿寺文書」、「種間寺文書」および春野町役場、弘岡上公民館、吾南土地改良区事務所等の所蔵史料が提供され、また多くの人びとが繁忙のなかで筆者らの聴き取りを快諾されたうえ、高知市の高知県立図書館、高知市民図書館、高知新聞社、甲藤勇氏、広谷喜十郎氏ら所蔵文書の利用ができたことは、望外の幸いであった。

一、本書が着手以来三カ年の短日月で刊行となったのは、町当局、町議会、町教育委員会、町史編纂委員会の熱意とご協力によるものであるが、とくに終始筆者を助けて万般の骨折りをされた近森謙郎氏のお蔭である。ま

た口絵、挿絵の写真は岡村写真館を煩わした。記して感謝したい。
一、文体は当用漢字と現代仮名遣いによる平明を志したが、筆者の不文により志を果したとは言えない。深くお詫びしたい。なお死没された人はすべて敬称を略した。

目次

序文	三
凡例	三
春野町史概説	三
自然編	三
春野町の自然	三五
位置、疆城	三五
地形、地質	三六
気候、生物	三
原始、古代編	三
原始の春野	三

米作り開始―山根遺跡…………… 二五
江と切畑…………… 四四

古代の春野…………… 五三

馬場末遺跡と吾川国造…………… 五三
吾川郡と律令支配…………… 五九
吾川郡再編成…………… 七三
海賊跳梁―熊野神社…………… 七七
古代末の政治と社会…………… 八三

中世編

鎌倉期の春野…………… 九七

吉良氏の起こり…………… 九七
京六條左馬牛八幡宮荘園吾川庄…………… 一〇三
吾南平野の開発…………… 一〇九

土居と吾南平野…………… 一一八

南北朝期の春野…………… 一二三

公家方吾川庄…………… 一二三
吉良氏の台頭…………… 一四〇

室町期の春野…………… 一五〇

大平氏と吾南地方…………… 一五〇
国人の成長…………… 一五五

戦国期の春野…………… 一六六

吉良宣経の善政…………… 一六六
吉良氏滅亡…………… 一七六

長宗我部期の春野…………… 一八六

近世編

長宗我部、本山両氏の争覇……………一八六
長宗我部吉良氏の興亡……………一九二
長宗我部検地と吾南地方……………二〇三
「長宗我部地検帳」と春野地方……………二〇三

近世初期の春野……………三三九

新しい村落の成立……………三三九
野中兼山と弘岡井筋……………三四六
新田と郷士……………三六二
新川町の起こり……………三七五

近世中期の春野……………三六八

水田二毛作の村……………三六八
交通と鉱業……………三七〇
地主制開始……………三七一

近世後期の春野……………三九四

社会の変質と庄屋の転免……………三九四
譲受(請)郷士の活動……………三九七
近代への道……………三九九
産業経済の発達……………四〇四
近世の文化……………四〇一

近代編

明治前期の春野……………四二二

近代的な地方制度の出発……………四二二
地租改正……………四三〇
弘岡井筋管理の近代化……………四三六
文明開化……………四四五
殖産興業……………四五〇
国民教育制の創設……………四五六

